

知識を相互に関連付けて思いや考えを基に創造する姿を目指すために、
資質・能力が活用・発揮される場面の設定を図る学習

日 時 令和2年12月15日(火) 5校時 実施
生 徒 旭川市立永山西小学校3年1組 32名
指導者 小 林 豊

- 1 単元名 組み立てを捉えて、民話をしょうかいしよう
「三年とうげ」 (光村図書 3年)

2 単元について

(1) 教材観

本単元に関わる学習指導要領の目標および内容(抜粋)は、次のとおりである。

【学習指導要領】～第3学年及び第4学年(国語科)の目標と内容～

1 目 標

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようになる。
- (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内 容

【1 知識及び技能】

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

○語彙

オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。

【2 思考力、判断力、表現力等】

○読むこと

○構造と内容の把握(文学的な文章)

イ 登場人物の行動や気持ちについて、叙述を基に捉えること。

○精査・解釈(文学的な文章)

エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。

前単元「ちいちゃんのかげおくり」では、場面の移り変わりに注意して物語を読み進めた。中でも、二つの場面に出てくる「かげおくり」について、描写や主人公の心情を読み取りながら比較し、その大きな違いに気付くことができた。本単元「三年とうげ」においても、二つの場面で「転ぶ」という行為が出てくる。それぞれの場面を比べることで、人物の気持ちが大きく変化していることを読み取らせたい。

民話については、第1学年で「おおきなかぶ」、第2学年では「スーホの白い馬」を学び、これらは三人称による全知的な視点も同じ教材文である。本教材文「三年とうげ」においても、共通する特有の語り言葉を楽しみながら、登場人物の性格や心情を想像し、物語のイメージを膨らませて読ませたい。

(2) 児童観

叙述を基にして人物の心情を想像する力については、得意とする児童、苦手とする児童の個人差が大きい。苦手とする児童は、挿絵を中心に考える姿が多くみられる。物語文の前単元「ちいちゃんのかげおくり」では、主人公が亡くなってしまったにも関わらず、「ちいちゃんが天国で家族に会えて、ハッピーエンドで終わって良かった。」と考える児童が多かった。これは、主人公であるちいちゃんの立場や気持ちに寄り添って考えることができたということである。しかしその一方で、物語全体の構造を捉え、全体を俯瞰して感想をもつ力が十分でないことが分かった。

民話や昔話について事前アンケートを行ったところ、多くの児童が好きと答えた。しかしその理由としては、「出てくる人物が面白いから。」「昔話は不思議だから。」といった回答がほとんどであり、民話の特徴である「起承転結」を踏まえた「物語の組み立てに関連した面白さ」については意識できていないことが伺えた。

(3) 指導観

本単元では、「三年とうげ」を教材とし、民話の組み立てを捉え、登場人物の心情変化と関連付けて理解する学習に取り組む。そのために、読み取った民話の組み立てを中心にした「昔話紹介カード」を作成し、その面白さを紹介し合うという言語活動を設定した。

今回の学習では、「登場人物の気持ちの変化を、場面の移り変わりと結び付ける」という指導事項が重点となる。民話の多くは、主人公の気持ちや状況が最初と最後で大きく変わり、「ハッピーエンド」もしくは「バッドエンド」になることが多い。そのことについては、児童もこれまでの読書等の経験から感覚的に理解している様子が見られる。そこで、民話の組み立てに着目させ、人物の変化と結び付けながら、「物語の展開が大きく変容することの面白さ」に気付かせたいと考えた。

そのために、民話や昔話がいわゆる「起承転結」の組み立てとなっていることを理解し、その面白さを生かした紹介カードの完成を目指していくように指導計画を作成した。言語活動である紹介カードの作成を毎時間に振り分け、児童が学習活動に目的意識と見通しをもって取り組めることをねらった。紹介カードは「転の部分を生かしたクイズ形式」にすることで、その面白さを実感できるように考えた。第1時では、児童の活動への意欲がより高まるように、「学級の読書量が低いこと」を提示した。

本時では主人公であるおじいさんの気持ちの変化を叙述から読み取っていく。場面の移り変わりや結び付けることで、物語が大きく変わる面白さについて考えさせたい。

(4) 学びの基盤

学びの基盤に関わり、本学級では以下の点を大切にしてきた。

- ① 「教室環境の整備」について
 - ・主体的に活動しようとする思いを認め、児童作成のポスター等を掲示してきた。
- ② 「学習規律の確立」について
 - ・聞き手によく伝わるように、「結論→理由」という話し方を指導してきた。
 - ・話し手への思いやりを大切にできるように、「体を向けて聞き、反応を示す」という聞き方を指導してきた。
- ③ 「支持的風土の醸成」について
 - ・その人の短所ではなく、長所を認めていくことを伝えてきた。
 - ・学級通信等を活用し、児童の頑張りや成長を発信してきた。

3 単元の目標

- (1) 様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすることができる。
(知識及び技能) (1) オ
- (2) 登場人物の行動や気持ちについて，叙述を基に捉えることができる。
(思考力，判断力，表現力等) C (1) イ
- (3) 登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
(思考力，判断力，表現力等) C (1) エ
- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。
(学びに向かう力，人間性等)

4 単元で取り上げる言語活動

物語を読んで，理解したことに基づいて，内容を紹介する。

(関連：思考力，判断力，表現力等 C (1) イ)

5 単元の評価規準

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使っていると同時に，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにしている。(1) オ)	①「読むこと」において，登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えている。 (C (1) イ) ②「読むこと」において，登場人物の気持ちや変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 (C (1) エ)	①進んで，登場人物の気持ちの変化について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し，学習の見通しをもって民話や昔話の内容を紹介しようとしている。

6 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元の指導計画と評価計画における18次研究との関わり

研究内容(3) 指導計画・評価計画

指導に生かす評価，記録に残す評価に分けて位置付けることについて

指導計画及び評価計画を作成するにあたり，学習評価としての目的から「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」の2つに分けて位置付けた。その意図について以下の2点がある。

1つ目は，「評定のための評価，教師の評価疲れなどの課題を克服するため」である。これまでの評価計画を振り返ると，その内容や見取り方について，現実的に難しい部分が見られた。評価の目的を明確にすることで，単元を通して負担なく評価することができると思った。評価の内容や方法が無理のないものになることで，評価の妥当性と信頼性も高めることができると思った。「指導に生かす評価」は評定に直接関わるものではない。学級の児童全員の学習状況を俯瞰しながら，主に評価規準の達成が困難と判断する児童を中心に手立てを講じていく場としておさえる。計画には，つまずきが予想される点について「指導の手立て」を位置付けた。

2つ目は，「児童の学びの段階を考慮するため」である。学習における学びの質は，学習活動が発展するにつれて高まっていく。単元全体で児童の学習状況を捉える場合，単元の後半において児童の成長を見取ることが妥当であると考えた。本単元は，前半で力を付け，後半でその力を活用するという構成とした。単元前半では「指導に生かす評価」を主とし，それぞれの児童に不足する部分を補っていくことに重きを置く。後半では，「記録に残す評価」を主とし，身に付けさせるべき資質・能力について，妥当性・信頼性のある評価ができるように考えた。

本時では、教材文についての紹介カードを完成させる。ここでは指導に生かす評価として児童のつまずきを克服できるようにしていく。次時では、児童一人ひとりが選んだ民話の紹介カードを書く活動を行う。児童がこれまでの学習を生かして紹介カードを作成できたかどうかを見取り、評定を付ける材料とする。

指導計画及び評価計画を作成するにあたっては、児童も教師も、「学習のゴールと道筋」を明確にすることが重要であると考え。学習のゴールとは、身に付けさせるべき資質・能力であり、そのゴールが明確でなければ、「どこに向かって、どのように進むか」が分からず、児童による主体的な学習とはならない。また、ゴールが見えているからこそ、要所でチェックすべきポイントが明確となり、適切な場面での評価が可能となる。児童の学習状況を適切に把握しながら指導を改善し、「指導と評価の一体化」の実現を目指したい。

(2) 単元の指導計画と評価計画

問題文 学習課題 まとめ 目標 指導 指導に生かす評価 記録 記録に残す評価

時	主な学習活動	評価方法及び指導上の留意点		
		知・技	思・判・表	主
1 2	<p>◎昔話を紹介し合う活動について、学習課題を設定し、見通しをもつことができる。</p> <p>主体的な学び</p> <p>○これまでに読んだ昔話を想起しながら、昔話の面白さについて交流する。</p> <p>○読書記録が良くなかった結果を提示する。</p> <p>○担任が作成した「昔話の紹介カード」を例示し、相手が読みたくなるポイントを昔話の組み立てと関連付けて考える。</p> <p>○単元のゴールを設定する。</p> <p>昔話の組み立てが分かる力をつけて、相手が読みたくなるような紹介カードを完成させよう！</p> <p>○教材文の範読を聞き、学習計画を立てる。</p> <p>○並行読書を進める本を考える。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>これから組み立てを読み取る力を付けて、楽しい紹介文を完成させるぞ！</p>			<p>指導<①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・振り返りシート <p>指導の手立て</p> <p>教師が作成した紹介カードの項目を手がかりにさせ、「どのような学習をすれば完成できるか」を考えさせる。</p>
3	<p>◎教材文から時間の変化と登場人物の行動を読み取り、昔話の「始まり、起こる、解決、むすび」の組み立てと対応させることができる</p> <p>○課題を把握する。</p> <p>「三年とうげ」の組み立てをたしかめ、「始まり」の場面をまとめよう！</p> <p>○挿絵をもとに、同じ日に起きた出来事を整理する。</p> <p>○「時間」が分かる叙述を探し、場面を整理する。</p> <p>○整理した場面ごと「始まり、起こる、解決、むすび」の組み立てに対応させる。</p> <p>○「始まり」の場面で重要なキーワードを考え、紹介カードの「始まり」の部分を書き込む。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>「三年とうげ」の組み立ても4つに分かれていたよ！場所や時間が分けるポイントだね！</p>	<p>指導<①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・紹介カード ・振り返りシート <p>指導の手立て</p> <p>挿絵をもとに場面を整理する。教材文の中で、時間が分かる記述にサイドラインを引かせていく。ペアで確認させていく。</p>		

4	<p>◎主人公の行動や気持ちなどの様子について、叙述を基に捉えることができる。</p> <p>○課題を把握する。</p> <p>おじいさんの気持ちを読み取って、「起こる」と「結び」の場面をまとめよう！</p> <p>○「起こる」「むすび」それぞれの場面からおじいさんの気持ちや様子が分かる叙述を探す。</p> <p>○叙述や挿絵を関連付け、「悲しい気持ち」から「嬉しい気持ち」に変化していることを理解する。</p> <p>○学習を基に、紹介カードの「起こる」と「むすび」に関わる部分を書き込む。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>主人公の気持ちが大きく変わったことが分かったよ！紹介カードができてきたよ！</p>		<p>指導<①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書へのライン ・観察 ・紹介カード ・ノート ・振り返りシート <p>指導の手立て</p> <p>教材文の中で、おじいさんの気持ちが分かる部分にサイドラインを引かせていく。ペアで確認させていく。</p>	
5 本時	<p>◎主人公の気持ちがどのように変化していったかについて叙述を基に捉え、「解決」部分を紹介カードに生かすよさに気付くことができる。</p> <p>○課題を把握する。</p> <p>おじいさんの気持ちはどのように変わっていったのかを読み取って、「解決」の場面をまとめよう！</p> <p>○「解決」の場面にあるおじいさんの気持ちを探し、その変化の様子を整理していく。</p> <p>○「解決」の場面の面白さについて話し合い、読み手への効果について考える。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>「解決」の場面は人物の気持ちが変化して面白いな。この部分を生かせば、昔話を読みたくなってしまおう紹介カードができそうだよ！</p> <p style="text-align: right;">対話的な学び</p>		<p>指導<②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書へのライン ・観察 ・紹介カード ・ノート ・振り返りシート <p>指導の手立て</p> <p>教材文の中で、気持ちの変化が分かる部分にサイドラインを引かせ、整理させていく。動作化させるなど、児童が様子を想像しやすくする。</p>	
6	<p>◎自分が選んだ昔話の登場人物の気持ちの変化から組み立てを捉え、紹介カードを完成させることができる。</p> <p>○課題を把握する。</p> <p>これまでの学習を生かして、選んだ昔話の紹介カードを完成させよう！</p> <p>○これまでの学習から紹介カードにまとめていくためのステップを確認する。</p> <p>○自分が選んだ昔話の紹介カードを書き上げていく。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>組み立てを生かして、昔話を読みたくなるような紹介カードができたよ！発表が楽しみだな！</p>		<p>記録<①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介カード ・振り返りシート <p>記録<②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介カード ・振り返りシート 	
7	<p>◎完成させた紹介カードを基に交流し、活動の達成度を振り返り、友達のよさや自分の成長を認めることができる。</p> <p>○課題を把握する。</p> <p>昔話を紹介し合い、学習の成果を確認しよう！</p> <p>○紹介カードを使って、グループや全体で交流する。</p>	<p>記録<①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介カード 		<p>記録<①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート

<p>○感想を交流し、これまでの学習を振り返る。</p> <p>○「昔話を読みたくなるような紹介ができたか」を振り返り、身に付いた力を実感できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>これまでの学習で昔話の組み立てがよく分かるようになったよ！友達の紹介してくれた本も組み立てを考えて読んでみたいな！</p> </div> <p>○次の単元では実際にお話を自分で作る学習を行うことを伝え、身に付けた力を生かそうとする気持ちを高める。</p> <p style="text-align: right;">主体的な学び</p>			
---	--	--	--

7 本時の学習（7時間扱い 5／7）

(1) 目 標

主人公の気持ちがどのように変化していったかについて叙述を基に捉え、「解決」部分を紹介カードに生かすよさに気付くことができる。

【思考力・判断力・表現力（指導に生かす評価）】

(2) 本時における 18 次研究との関わり

研究内容（4）観点ごとの総括

「気持ちの変化を読み取れているか」と「『解決』部分を生かすよさに気付いているか」の判断について

【「気持ちの変化を読み取れているか」について】

ここでは、主人公の気持ちが大きく変化したことをおさえた上で、具体的にどのように変化していったのかについて、叙述を基に想像することができるかを判断する。

判断方法は、「教材文の気持ちを表す叙述にサイドラインを引けているか」を中心とする。そのためには、「読み取るべき具体的叙述」をこちらがおさえておきながら児童の活動の様子を見取る必要がある。サイドラインを引けていない児童には、声を掛けながらサポートしていく。また、その叙述から気持ちを想像しやすくできるように、動作化などの方法で具体的にイメージできるように支援する。

【「『解決』部分を生かすよさに気付いているか」について】

本時は次時で行う「自分が選んだ昔話の紹介カードを、相手を読みたくなるように書く」というねらいを達成するために重要な時間となる。中でも、「昔話の組み立ての『解決』の部分に、その話の面白さがある」ということに気付かせ、「自分の紹介カードにもその部分を生かそう」という思いを高めることが求められる。

判断方法は、「『解決』場面の面白さがノートに記述できているか」「振り返りシートに紹介カードに生かそうとしている記述が見られるか」を中心とする。そのために、学習活動の中で、「解決」の場面の効果について考え、ノートに記述される場面を設ける。支援が必要であると感じた場合は、「解決部分がないと、どのようなお話になるか、どのような印象を受けるか」と具体的に考えさせる。

また、振り返りシートを書かせる前には、「解決」の場面を生かして作った3択クイズの交流を行う。友達のクイズの面白さに気付かせることで、「解決」の場面を取り入れることのよさを感じさせたい。

(3) 展 開

1 単位時間の問題文 1 単位時間の学習課題 まとめ **白抜き** 研究との関わり

教師の活動	児童の思考と手立て
<p>1 これまでの学習を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントでこれまでの学習を確認する。 ・前時の学習、紹介カードの進行を確認し、本時では「解決」の場面を読み取ることを確認する。 <p>2 本時の課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいさんの気持ちがトルトリのアイデアによって変わったことをおさえる。 <p>「おじいさんの気持ちを変えてくれたのは誰のおかげと言えますか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「解決」の場面でのおじいさんの気持ちの変化を図で示したものを2パターン提示し、どちらが近いかを問うことで課題を設定する。 <p>「おじいさんの気持ちの変化を矢印で表すとしたら、AとBのどちらに近いでしょうか？」</p>	<p>「『三年とうげ』の組み立てが分かってきたよ。」</p> <p>「紹介カードが書いて、力が付いてきたよ。」</p> <p>「クイズを作るのが楽しみだな。」</p> <p>「トルトリのおかげだよ！」</p> <p>「また転んだらいいよって言ったからだよ！」</p> <p>「Aみたいに一気に変わってはいないよ！」</p> <p>「Bだと思うよ！証拠の文があるよ！」</p>
<p>おじいさんの気持ちの変化を読み取って、「解決」の場面をまとめよう！</p>	
<p>3 おじいさんの気持ちが変わったきっかけと変化の様子を読み取らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいさんの気持ちの変化が分かる叙述を見付けさせ、教科書にサイドラインを引かせる。 <p>「おじいさんの気持ちが変わるところに線を引きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・叙述を板書に整理し、おじいさんの気持ちの変化に気付かせる。 <p>「おじいさんの気持ちはどのように変わっていると言えるかな？」</p>	<p>「気持ちの変化の読み取り」を評価する場面</p> <p>【読み取らせたい叙述】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>疑うが、アイデアに納得していく様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふとんから顔を出しました ・ばかな。わしに、もっと早く死ねと言うのか ・しばらく考えて ・うん、なるほど、なるほど <p>喜びが増していく様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふとんからはね起きると ・すっかりうれしく ・あんまりうれしくなった ・けるけるけるっとした顔 ・もう、わしの病気はなおった。百年も、二百年も ・にこにこわらいました </div> <p>「始めは疑っていたけど、納得して、だんだん嬉しくなったんだね！」</p> <p>「階段みたいに上がっている感じだね！」</p>
<p>4 「解決」の場面がもつ効果を考えさせ、その面白さに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み取った「解決」の場面について、その面白さを考えさせる。 <p>「トルトリがいなかったら、このお話はどうなっていたと思いますか？」</p> <p>「おじいさんが元気になった時、読んでいてどんな気持ちになりましたか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「解決」の場面の面白さについてノートに書かせ、交流させる。 <p>「『解決』の部分の面白さは何でしょう？」</p>	<p>「『解決』を生かすよさに気付いているか」を評価する場面</p> <p>「おじいさんは病気のままで、悲しいお話で終わっていたと思うよ。」</p> <p>「おじいさんが元気になって嬉しかった！」</p> <p>「よかったあと思った！」</p> <p>「どうなっちゃうのかドキドキする！」</p> <p>「主人公が元気になるとうれしくなる！」</p> <p>「人物が大きく変わって面白い！」</p>




<p>5 紹介カードに載せる三択クイズを考えさせ、交流させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3択クイズの記述を考え、交流させる。 「『三年とうげ』の『解決』の場面を生かした3択クイズを考えてみましょう。」 「紹介を聞いて、初めてこのお話を読む人はどんな気持ちになるかな？」 ・自分が選んだ昔話の紹介にも「解決」の場面が生かせることに気付かせる。 「みんなが選んだ昔話も面白い『解決』の場面はありますか？」 <p>6 本時の学習を振り返らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに学習の振り返りを記入し、交流させる。 「学習の力のレベルと振り返りをシートに書きましょう。」 	<p>「面白い三択クイズが作れたね！」 「友達の紹介を聞くのが楽しいね！」 「きっと読んでみたくなると思うよ！」</p> <p>「ぼくが選んだ昔話もお話のがらっと変わるよ！みんなびっくりすると思うよ！」 「早く自分が選んだ昔話のクイズを作りたい！」</p> <p>「『解決』を生かすよさに気付いているか」を評価する場面</p>
---	--

昔話の組み立てが分かる力が付いたよ！
「解決」は人物が大きく変わる場面で、わくわくするな！
この部分を生かせば、昔話を読みたくなってしまいう紹介カードができそうだよ！

<p>【評価について①】</p> <p><何を> 気持ちの変化を読み取れているか。 <どこで> 活動3 <何で> ・教科書へのライン・観察 おじいさんの気持ちの変化が分かる叙述にラインを引けているか、そこから様子を想像できているか。 <手立て> 板書に整理した気持ちの変化を表す言葉に着目させ、動作化などを通して想像させる。</p>	<p>【評価について②】</p> <p><何を> 「解決」を生かすよさに気付いているか。 <どこで> 活動4, 活動6 <何で> ・ノート ・振り返りシート ・「解決」部分の面白さを記述できているか。 ・紹介カードに生かそうとする記述があるか。</p> <p><手立て> 友達が作った三択クイズに感想をもたせ、「解決」を生かすと面白くなることを感じさせる。</p>
---	---

(4) 板書

むすび


- ・すっかりうれしく。
- ・けるけるけりとした顔。
- ・わしの病気はなおった。
- ・にこにこわいました。

「解決」のおもしろさ

- ・ドキドキ、ワクワク
- ・大きな変化が起こる
- ・おもしろさのポイント


「おじいさんの気持ちの変化を読み取って、「解決」の場面をまとめよう！」

変化のきっかけ トルトリ




どちらが近い？

A




B



「解決」までの 気持ちの変化

起こる



- ・ばかな。わしに、もっと早く死ぬと言ったのか。
- ・しばらく考えていましたが、うなずきました。
- ・なるほど、なるほど。
- ・ふとんからはね起きました。

8 振り返りシート

学習を終えて	⑥	昔話をしようかいし合 い、学習の成果を確認し よう！						学習計画（ゴールまでのステップ）	時 課題 楽しく紹介 できそう レベル	振り返り
	⑤	これまでの学習を生か して、選んだ昔話の紹介 カードを完成させよ う！								
	④	おじいさんの気持ちはど のように変わっていった のかを読み取って「解決」 の場面をまとめよう！								
	③	始めと最後のおじいさ んの気持ちを読み取っ て「起こる」「結び」の 場面をまとめよう！								
	②	「三年とうげ」の組み立 てをたしかめ「始まり」 の場面をまとめよう！								
	①	学習の計画をたてよう。								

学習のゴール（<u>する力をつけて</u>をしよう）

昔話の組み立てが分かる力をつけて、相手が読みたくなるような
しようかいカードを完成させよう！

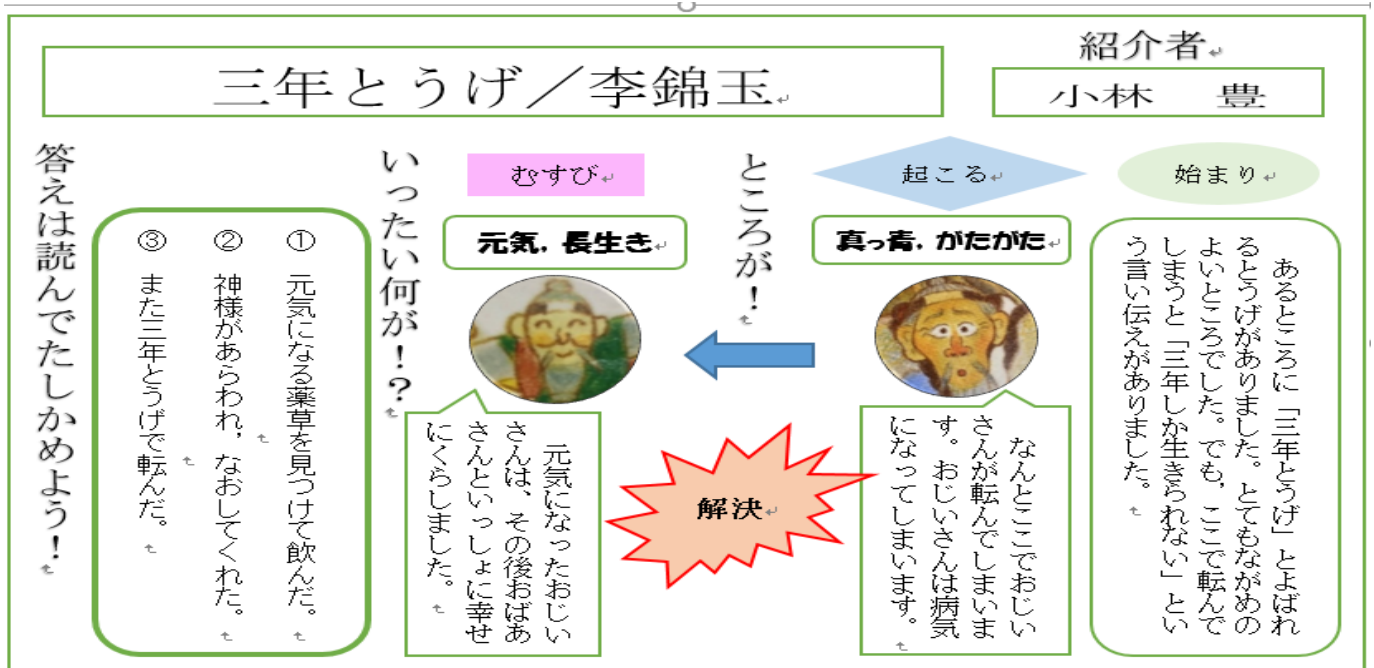
組み立てをとらえて、民話をしようかいしよう「三年とうげ」

本のしようかいは得意？

◎ ○ △ 理由

三年組 番 名前

※教材文を使って完成を目指す紹介カードの例



9 研究協議の主な内容

(1) グループ協議の内容

【授業者より】

① 「気持ちの変化の読み取り」の評価について

- ・児童 A については、はじめは線が引けなかったが、声掛けや友達との交流を通して、気持ちの変化に気付き始め、線を引けるようになった。二人とも概ね B 評価であろう。

② 「『解決』を生かすよさに気付いているか」の評価について

- ・評価が難しかった。児童 B の記述からは、解決場面の面白さに気付いているかを見取ることができなかった。児童に口頭で聞いてみる必要があった。

【グループ①から】

- ・児童は心情の変化に気付くことができている。板書では矢印を上手に使い、気持ちの変化を可視化していたことが良かった。
- ・ラインを引く際に、色分けして線を引かせるとより評価しやすかったのではないかな。
- ・解決場面の面白さについては、教材文のことなのか、一般的な昔話のことなのかが不明確だった。また、振り返りの場面では、何を書くのか手立てが必要だったと感じた。

【グループ②から】

- ・抽出児童は動作化を取り入れたことで気持ちの変化に気付いていた。解決場面の面白さについてもしっかりと考えていた。
- ・線を引けていけばB評価なのか、どんな点に気を付けていけばA評価になるのか、基準が明確であると良い。解決場面の面白さについて教材文においては気付いていたが、一般的な物語の面白さとして考えられていたかは判断できなかった。

(2) 指導主事の助言

《上川教育局教育支援課義務教育指導班主査 望月 俊綱》

① 「指導と評価の一体化」に関わって

- ・今年度の研修センターの評価についての研究は、まさに今、多くの学校から求められていることである。学習評価は、児童生徒の学習改善や教師の指導改善につながるものにしていくことが大切であり、研修センターが示している評価計画は、学習評価における「指導と評価の一体化」の視点から大変重要である。
- ・また、学習評価の妥当性や信頼性を高めるために、教師が設定した評価規準の妥当性を検証する必要がある。各学校の研修活動において評価規準の検証を軸とした研究協議を行うことで、学習評価の妥当性や信頼性が高まり、日常の授業における評価が、児童生徒の学習改善や教師の指導改善につながると考える。

② 次年度の研究に向けて

- ・従前の「関心・意欲・態度」の観点も、各教科等の学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価するという考え方に基づくものである。「主体的に学習に取り組む態度」は、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価する点を改めて強調するものである。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」は、性格や行動面の傾向ではなく、児童生徒が主体的に学習に取り組んでいる意志的な側面を評価することが大切であり、見取りの規準や場面を意図的に設定する必要がある。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法について「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を活用し、上川教育研修センターから様々な教科での「主体的に学習に取り組む態度」の評価事例を発信してほしい。

《旭川市教育委員会教育指導課主査 忠海 盛弘》

① 「記録に残す評価」と「指導に生かす評価」について

- ・「記録に残す評価」と「指導に生かす評価」について、研修センターで定義を明確に位置付け、先生方が授業づくりに生かす際に誤解や混乱がないようにしてほしい。
- ・本時のような「指導に生かす評価」の授業においても、「記録に残す評価」の評価規準を意識して、個に応じた指導を行うことの重要性を感じた。

② 今後検証を期待することについて

- ・「知識・技能」と「主体的に学習に取り組む態度」についても、単元の中で、どのような評価計画を立てて、どのように指導するかを考えていくことが重要である。